

2022年8月期 通期 決算説明資料

2022年11月18日 | 証券コード：9264

- 2022年8月期通期連結業績
- 2023年8月期通期連結業績見通し
- Appendix
 - 会社概要
 - 当社の強み
 - 成長戦略



IRメール配信登録

<https://www.magicalir.net/9264/mail/index.php>

- 2022年8月期通期連結業績
- 2023年8月期通期連結業績見通し
- Appendix
 - 会社概要
 - 当社の強み
 - 成長戦略

主力の環境エネルギー事業の市場低迷により減収減益着地 減損処理等により特別損失約2.1億円を計上

単位：百万円

	2021/8期 実績		2022/8期 予想		2022/8期 実績		前期比	予想比
売上高	6,256	-	6,789	-	5,806	-	92.8%	85.5%
営業利益	276	4.4%	343	5.1%	274	4.7%	99.3%	79.9%
経常利益	295	4.7%	344	5.1%	293	5.0%	99.1%	85.2%
当期純利益	193	3.1%	236	3.5%	△23	-	-	-
1株当たり 当期純利益（円）	82.24	-	100.39	-	△10.16	-	-	-

購買コストの見直し、利益率の高い案件獲得など継続的な原価率の低減策により 動力・重機等事業は利益率改善

単位：百万円

	2021/8期 実績	2022/8期 予想	2022/8期 実績	前期比	予想比
環境・エネルギー事業					
セグメント売上高	3,561	4,031	3,184	89.4%	79.0%
セグメント利益	158	-	135	85.0%	-
利益率	4.5%	-	4.2%	△0.2%	-
動力・重機等事業					
セグメント売上高	2,234	2,339	2,220	99.4%	94.9%
セグメント利益	201	-	217	108.2%	-
利益率	9.0%	-	9.8%	+0.8%	-
防災・安全事業					
セグメント売上高	461	419	401	87.0%	95.8%
セグメント利益	47	-	26	55.7%	-
利益率	10.3%	-	6.6%	△3.7%	-

全体的に前期比減となったものの、 動力・重機等事業のセグメント利益は前期比108.2%と増益着地

単位：百万円

環境・エネルギー事業

- ・ 半導体不足の影響等により商品仕入が計画通り進まず、一部納期遅延により受注を十分消化できず売上高減少
- ・ マリンリバーの株式取得に係る費用を販管費に計上

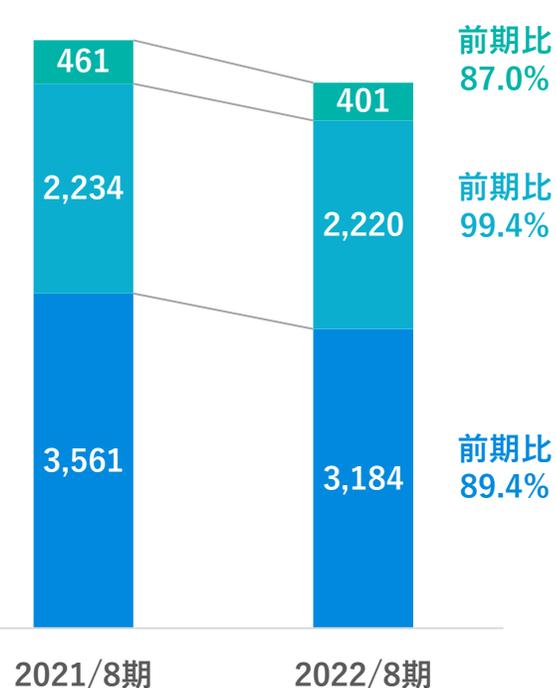
動力・重機等事業

- ・ 船舶用エンジン市場及び工作機械関連市場は需要が安定的に推移し、受注残を堅調に積み上げ
- ・ 機材価格の上昇に起因し、一部で材料の調達を遅らせる動きもみられ、機材の納入時期や生産工程の進捗が遅れ、出荷時期の翌月以降への繰越が発生

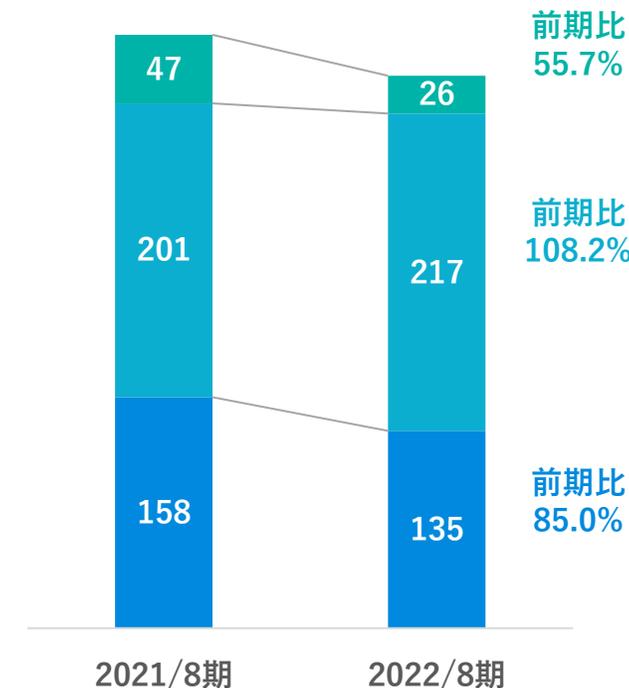
防災・安全事業

- ・ 病院や介護施設に対するスプリンクラー設備設置に係る補助金額が減少し需要動向が低調に推移
- ・ 病院等施設への対面営業も引き続き制約あり

セグメント別売上高



セグメント別利益



■ 環境・エネルギー事業 ■ 動力・重機等事業 ■ 防災・安全事業

単位：百万円

	2021/8期末	2022/8期末	前期末比	増減額
流動資産	4,266	3,730	87.4%	△536
現預金	2,109	1,648	78.1%	△461
固定資産	4,269	4,410	103.3%	141
有形固定資産	3,241	3,478	107.3%	237
資産合計	8,535	8,141	95.4%	△394
流動負債	3,109	3,122	100.4%	13
固定負債	2,628	2,342	89.1%	△286
負債合計	5,737	5,465	95.2%	△272
株主資本	2,796	2,683	95.9%	△113
資本金	1,062	1,062	100.0%	0
資本剰余金	920	920	100.0%	0
利益剰余金	814	701	86.1%	△113
純資産合計	2,797	2,675	95.7%	△122
負債純資産合計	8,535	8,141	95.4%	△394

自己資本比率

2021/8期 32.8%

2022/8期 32.9%

ROA（総資本利益率）

2021/8期 2.3%

2022/8期 △0.8%

ROE（自己資本利益率）

2021/8期 6.9%

2022/8期 △2.3%

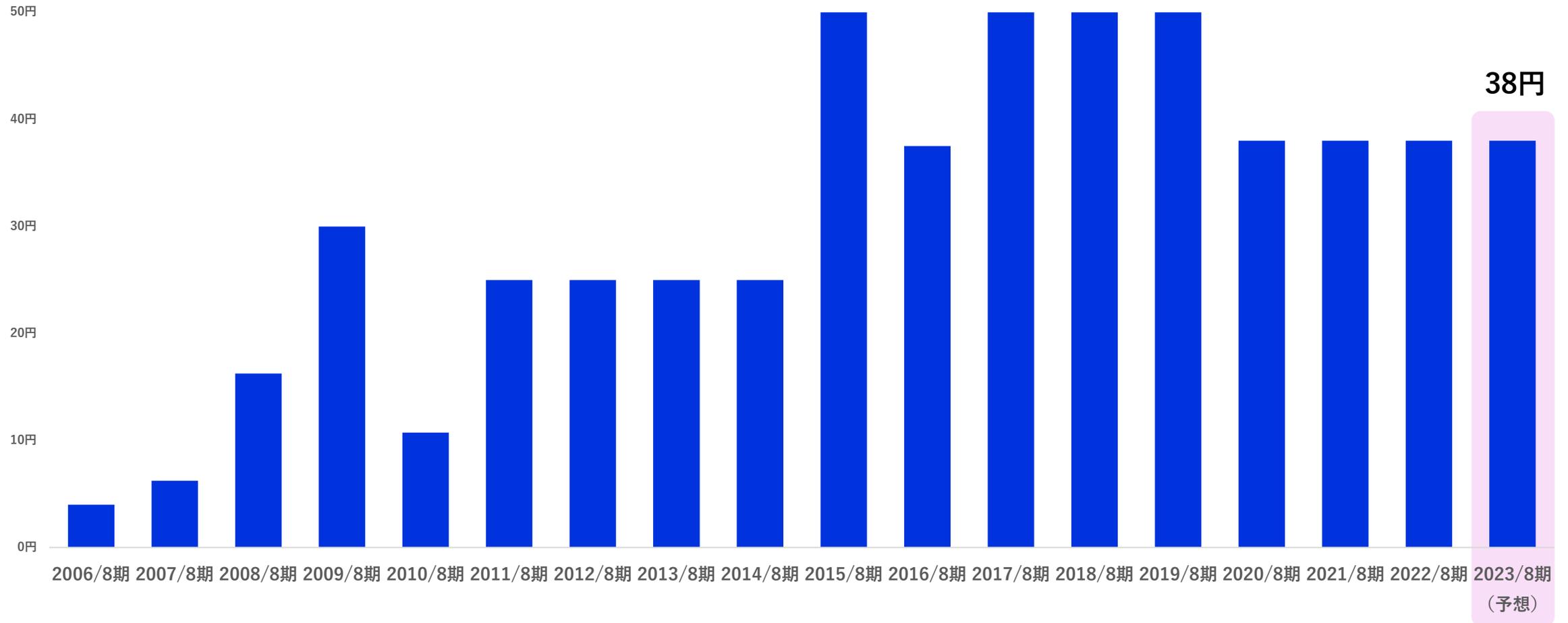
単位：百万円

	2021/8期	2022/8期	増減	内容
営業活動によるCF	576	314	△262	<ul style="list-style-type: none"> ・減価償却費 154 ・投資有価証券評価損益 117 ・前渡金の増加 △71
投資活動によるCF	△429	△260	169	<ul style="list-style-type: none"> ・定期預金の払い戻しによる収入 262 ・投資有価証券の取得による支出 △228 ・有形固定資産の取得による支出 △281
財務活動によるCF	△336	△426	△90	<ul style="list-style-type: none"> ・長期借入れによる収入 770 ・長期借入金の返済による支出 △1,096
現金及び現金同等物の増減	△191	△373	△182	
現金及び現金同等物の期末残高	1,540	1,167	△373	

株主の皆様への利益還元を経営上の最重要課題のひとつと考え、成長と株主還元を両立。
 当期は1株当たり年間配当金38円を継続し、次期も同額を継続する予定。

	2021/8期	2022/8期	2023/8期 予想
1株当たり配当金	38円	38円	38円
連結配当性向	46.2%	-	63.4%

17期連続で配当実施



※当社は2017年9月29日付で普通株式1株につき400株の株式分割を行っております。
 2006/8期（第18期）に株式分割が行われたと仮定し1株あたり配当金額を記載しております。

- 2022年8月期通期連結業績
- 2023年8月期通期連結業績見通し
- Appendix
 - 会社概要
 - 当社の強み
 - 成長戦略

業務効率化の推進や新たなマーケティング手法の導入により、 売上高前期比108.1%の成長を目指す

単位：百万円

	2021/8期 実績		2022/8期 実績		2023/8期 業績予想		前期比
売上高	6,256	-	5,806	-	6,276	-	108.1%
環境・エネルギー	3,561	-	3,184	-	3,603	-	113.2%
動力・重機等	2,234	-	2,220	-	2,384	-	107.4%
防災・安全	461	-	401	-	288	-	72.0%
営業利益	276	4.4%	274	4.7%	265	4.2%	96.7%
経常利益	295	4.7%	293	5.0%	265	4.2%	90.6%
当期純利益	193	3.1%	△23	-	141	2.2%	-
1株当たり 当期純利益（円）	82.24	-	△10.16	-	59.95	-	-

主力の水処理機器関連業務は底堅く推移の見込み

環境・エネルギー事業

売上計画**3,603**百万円

- ポンプ等の水処理機器及びその保守・メンテナンス等の需要は安定的に推移する見込み
- 大型受注案件はブレ幅大きく計画に含めず

動力・重機等事業

売上計画**2,384**百万円

- 船舶用エンジン台板や精密部品、プラント関連機器の受託製造については大手メーカーからの安定受注を見込む

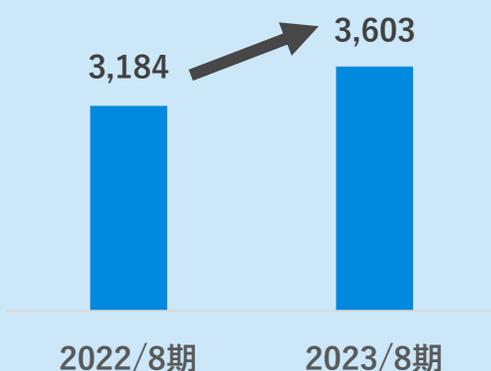
防災・安全事業

売上計画**288**百万円

- 過去2期の業況を踏まえ大幅の減収の見通し
- 市場動向や顧客の投資マインドを注視しつつ、引き続き収益機会を探る

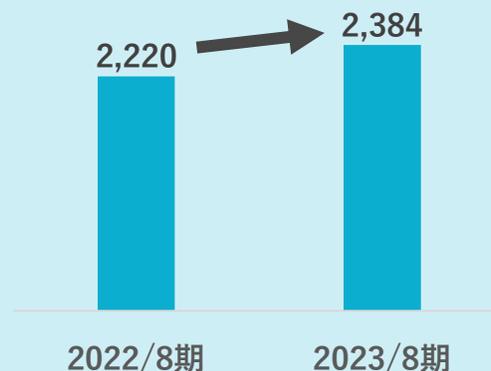
前期比**113.2%**

単位：百万円



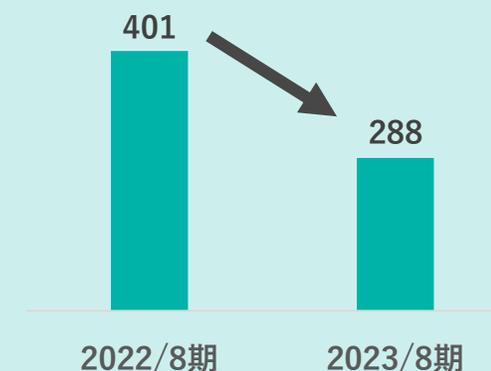
前期比**107.4%**

単位：百万円



前期比**72.0%**

単位：百万円



- 2022年8月期通期連結業績
- 2023年8月期通期連結業績見通し
- **Appendix**

会社概要

当社の強み

成長戦略

「お客様第一主義」

世界に通用する技術・商品の開発
社員一人一人、個性の尊重及び力の結集
社会の変化を先取りし、自らも進化する
これらのことを総合し、企業価値の増大を図る

会社名	ポエック株式会社 Puequ Co., LTD.
代表者	代表取締役会長 来山 哲二 代表取締役社長 松村 俊宏
所在地	広島県福山市南蔵王町2-1-12
事業内容	1. ポンプ、送風機、空調機、工場設備機器の販売 2. 機器類修理、保守点検、設計施工 3. 防災機器の販売 4. 産業設備機器の販売
資本金	1,062,420,380円（2022年8月現在）
設立	1989年（平成元年）1月25日
従業員数	66名／連結228名（2022年8月現在）
上場取引所	東京証券取引所 スタンダード市場（証券コード 9264）
事業拠点	仙台・北陸・東京・名古屋・大阪・岡山・広島・福山・松山・高松・福岡

ポンプ・イクイップメント・エキスパート

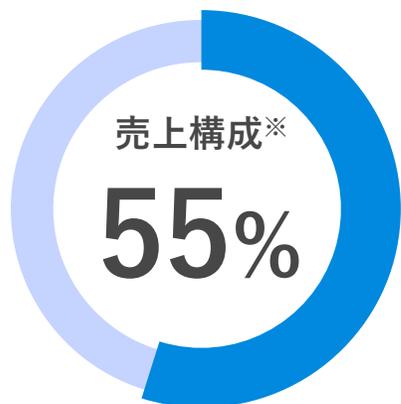
(Pump Equipment Expert : ポンプ装置の専門家)

ポンプメーカー出身の2人の創業者が
ポンプ装置に特化した会社を目指したことに由来。
現在では、社会インフラを支えるプロフェッショナル集団として、
ひと・みず・くうきに関するあらゆる分野での成長を目指す。

ひと・みず・くうきに関わるビジネスを展開

環境・エネルギー事業

環境・水処理機器の製造・販売・修理及びメンテナンス等技術サービス



取扱製品

環境関連機器

- ・ 水処理機器（ポンプ類、攪拌機等）

環境改善機器

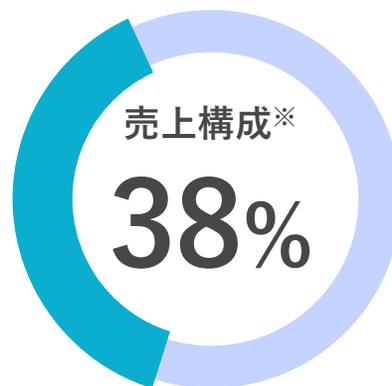
- ・ 景観配慮型防潮壁（SEA WALL）
- ・ オゾンガス発生装置
- ・ 窒素ガス発生装置
- ・ オゾン水製造装置
- ・ オゾン脱臭装置

エネルギー関連機器

- ・ プレート&シェル熱交換器

動力・重機等事業

船舶用機械及び部品、プラント関係機器及びその他動力関係部品の製造・販売



取扱製品

船舶用機械及び部品

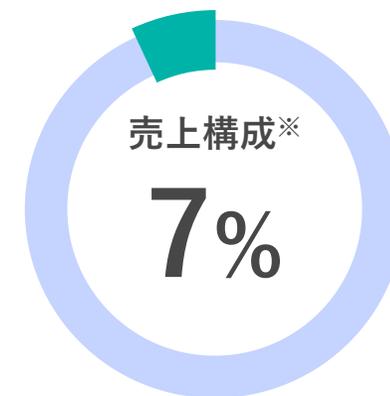
- ・ エンジン台板
- ・ 小型精密部品（燃料噴射弁等）

プラント関係機器

- ・ ボイラー・圧力容器等

防災・安全事業

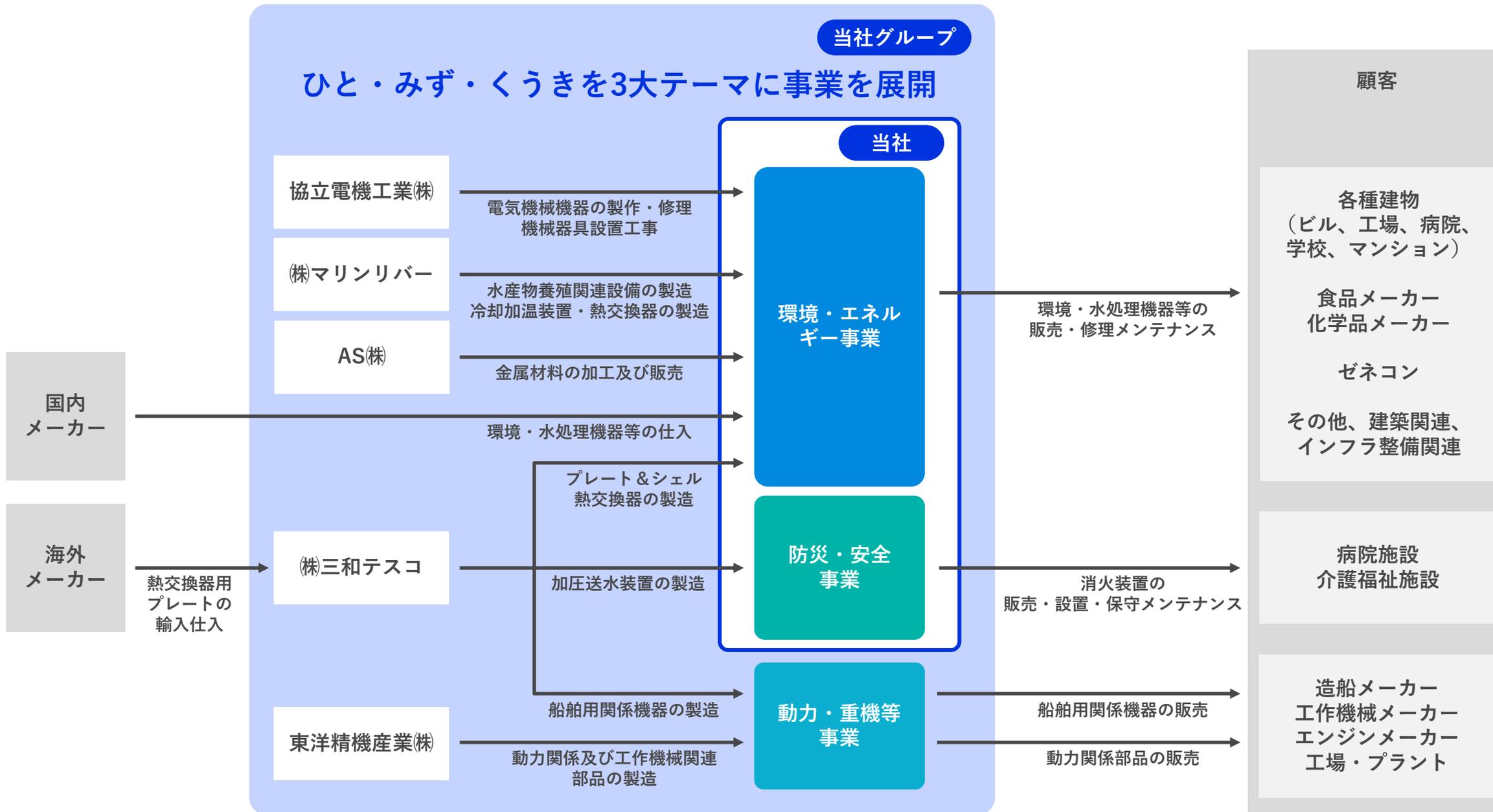
消火装置、その他消防機器の製造・販売・設置装置の保守及びメンテナンス等技術サービス



取扱製品

- ・ 屋内・屋外消火栓
- ・ スプリンクラー消火設備用加圧送水装置

※ 2022年8月期連結売上高に占める各事業の売上高



顧客

各種建物
(ビル、工場、病院、学校、マンション)

食品メーカー
化学品メーカー

ゼネコン

その他、建築関連、
インフラ整備関連

病院施設
介護福祉施設

造船メーカー
工作機械メーカー
エンジンメーカー
工場・プラント

ビジョン

誰もが欲しがる
「凄い技術とサービス」の
創造企業

ミッション

- 役職員とその家族の幸せ
- お客様の満足
- 株主への還元
- ステークホルダーと共に成長し良好な関係を維持
- 住みよい社会と環境

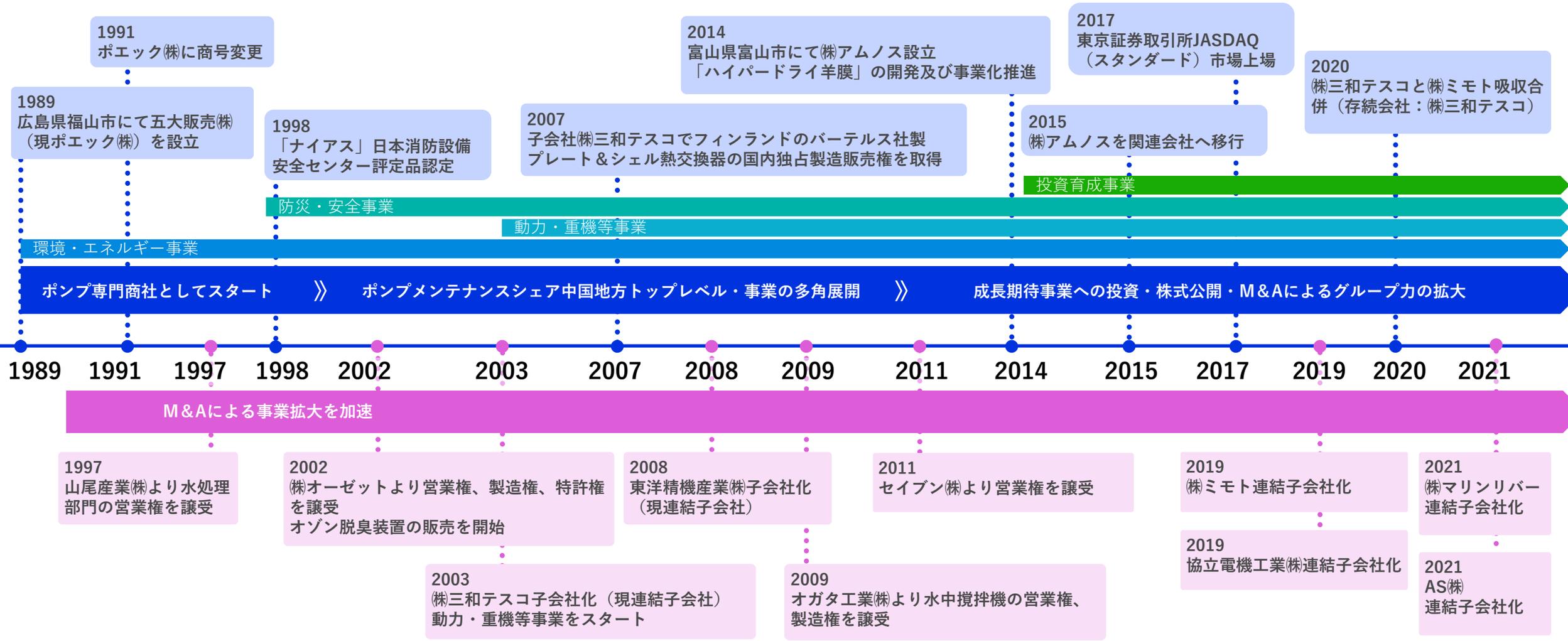
経営方針

投資・育成・成長サイクルを通じて
グループビジョンの実現に向けた
経営戦略を実行

約束

- コンプライアンスとモラルの向上
- 「安全」と「環境」への配慮
- 革新と変化へのチャレンジ

ポンプ専門商社として創業、現在では水と空気に重点を置いた 環境装置全体に分野を拡大



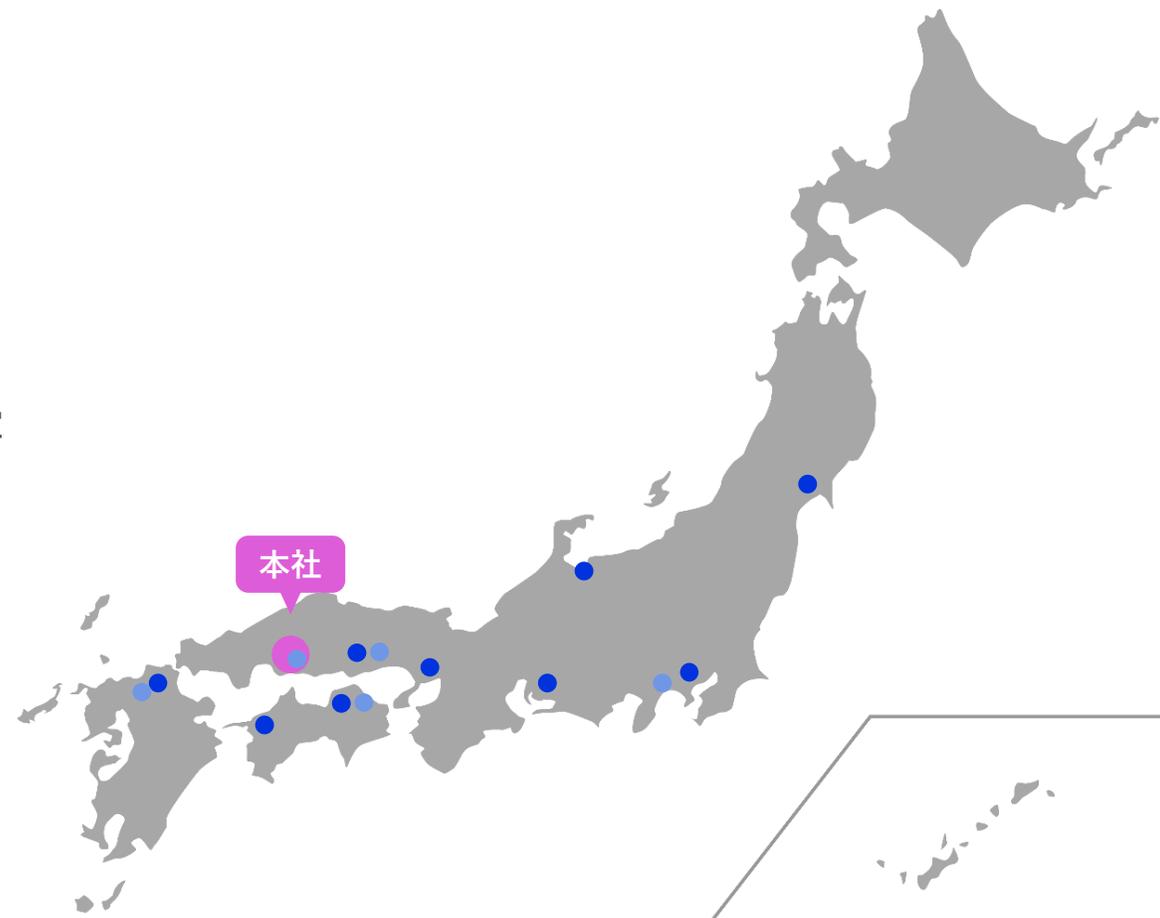
全国9営業所、2出張所、連結子会社5社で事業を展開

事業所

- 本社福山営業所 広島県福山市南蔵王町2-1-12
- 東京営業所 東京都中央区日本橋小舟町15-17 日本橋協栄ビル4F
- 仙台営業所 宮城県仙台市太白区西多賀3-7-38 ディライト西多賀103
- 北陸営業所 富山県富山市高田527 4F
- 名古屋営業所 愛知県清須市阿原星の宮189-1 アクティブ星の宮 A号室
- 大阪営業所 大阪府大阪市淀川区木川東3-5-10
- 岡山営業所 岡山県岡山市南区新保1308-2
- 広島営業所 広島県広島市西区中広町3-18-21 コーポラスナガイ102
- 福岡営業所 福岡県太宰府市国分1-1-41 オフィスパレア太宰府III 1号室
- 高松出張所 香川県高松市朝日町4-11-67
- 松山出張所 愛媛県松山市中村5-3-15 マッピーテナント B号室

連結子会社

- 株式会社三和テスコ 香川県高松市 出資率100%
- 東洋精機産業株式会社 岡山県岡山市 出資率100%
- 協立電機工業株式会社 神奈川県茅ヶ崎市 出資率100%
- 株式会社マリンリバー 福岡県糟屋郡 出資率100%
- AS株式会社 広島県福山市 出資率100%



- 2022年8月期通期連結業績
- 2023年8月期通期連結業績見通し

- **Appendix**

会社概要

当社の強み

成長戦略

ひと・みず・くうきにかかわるビジネスに投資・育成し、 それぞれの企業価値とグループ価値を高める

環境・エネルギー事業

動力・重機等事業

防災・安全事業

+

投資育成事業
新たな成長事業の育成

重点成長
期待事業

環境改善機器
(オゾン発生装置・防潮壁)
販売

消火装置の
製造・販売・設置

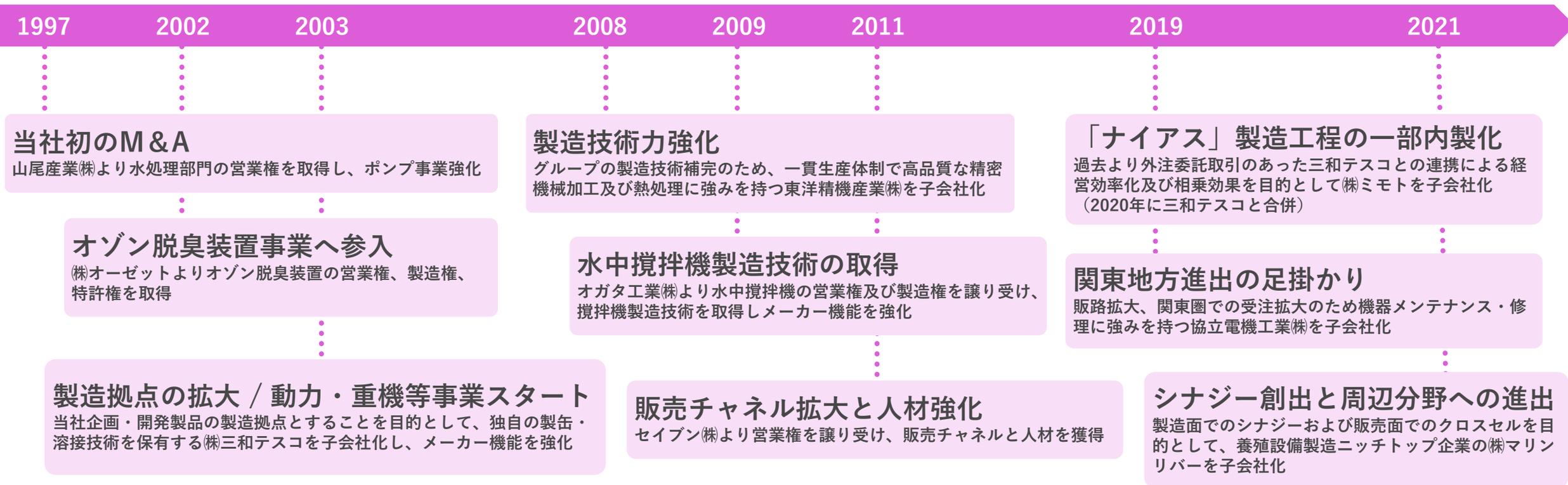
再生医療
(乾燥羊膜の製造販売)

安定収益
基盤事業

水処理機器
(ポンプ類・攪拌機)
販売・技術サービス

プラント・船舶用
機器の製造・販売

これまでに合計9件のM&Aを実行し、事業を拡大 技術を見つけ、育て、活かすM&A戦略



高い専門性 × 対応力 × エリア拡大 = ポエックの総合力



豊富な経験に裏付けされたポンプに関する高い専門性

幅広い分野からの依頼に応えてきた経験豊富な熟練技術者が多く在籍し、高い専門知識を保有

あらゆるポンプを知り尽くした幅広い対応力

ビル、工場、病院、学校、マンションなどの各種施設、
汚水処理用、防災用、排水用、スプリンクラー用など、各用途
また全メーカーのポンプにワンストップで対応可能
新規販売・買い替え・修理メンテナンスの全てのニーズに対し
スピーディーにソリューションを提供

広範囲をカバーする組織的なメンテナンス体制

全国 9事業所、2出張所、連結子会社で展開
今後さらにカバーエリアを拡大

革新的な環境・防災機器により持続可能な社会の実現に貢献

- 政府の掲げる防災・減災、国土強靱化対策需要の高まりにより、今後拡大が期待される市場
- 気候変動の影響により激甚化・頻発化する気象災害や、切迫化する大規模地震に備え、被害を防止・最小化するための環境・防災機器の開発・製造・販売を推進

停電・断水時も作動する消火装置「ナイアス」

消防法によりスプリンクラー消火設備の
設置義務のある病院や福祉施設を中心に販売拡大

BCP

防災



福祉施設（スプリンクラー設備）

販売開始以来
累計販売台数

790 台超

累計販売金額

4,568 百万円

海沿いの景観と安全を守る防潮壁「SEAWALL」

推進協議会の代表企業として取扱強化
港湾の津波対策事業の推進に伴い受注増加

津波

高潮



兵庫県芦屋市 南芦屋浜

2018年販売開始以来
累計販売金額

639 百万円

コア事業による安定収益をベースに、成長性の高い分野へ積極的に投資・進出

オゾン装置研究開発

産学連携でオゾン装置開発における共同研究を推進

オゾンによるウイルス不活性化技術を活用した
新製品開発と市場への早期投入を目指す

AMNOS

既存事業の原資を将来性の高いビジネスに投資

実用化が期待される再生医療分野へ積極的に投資。
今後、韓国での販売実績を積み上げ、
日本および海外での事業展開を目指す



投資

短期的な利益を追わず、
中長期目線で事業へ先行投資

集中

成長可能性の高い事業
を見極め継続投資

成長

事業の収益化

拡大
・
収穫

収益の最大化

- 2022年8月期通期連結業績
- 2023年8月期通期連結業績見通し

- **Appendix**

会社概要

当社の強み

成長戦略

1. 環境・エネルギー事業

- メンテナンスサービスの強化とエリア拡大
 - 社会課題解決型商品の販売拡大
 - 大型水産設備市場におけるチラー・熱交換器及び水処理機器の販促強化
 - IoT商品の販促及び自社IoTシステムの開発
-

2. 動力・重機等事業

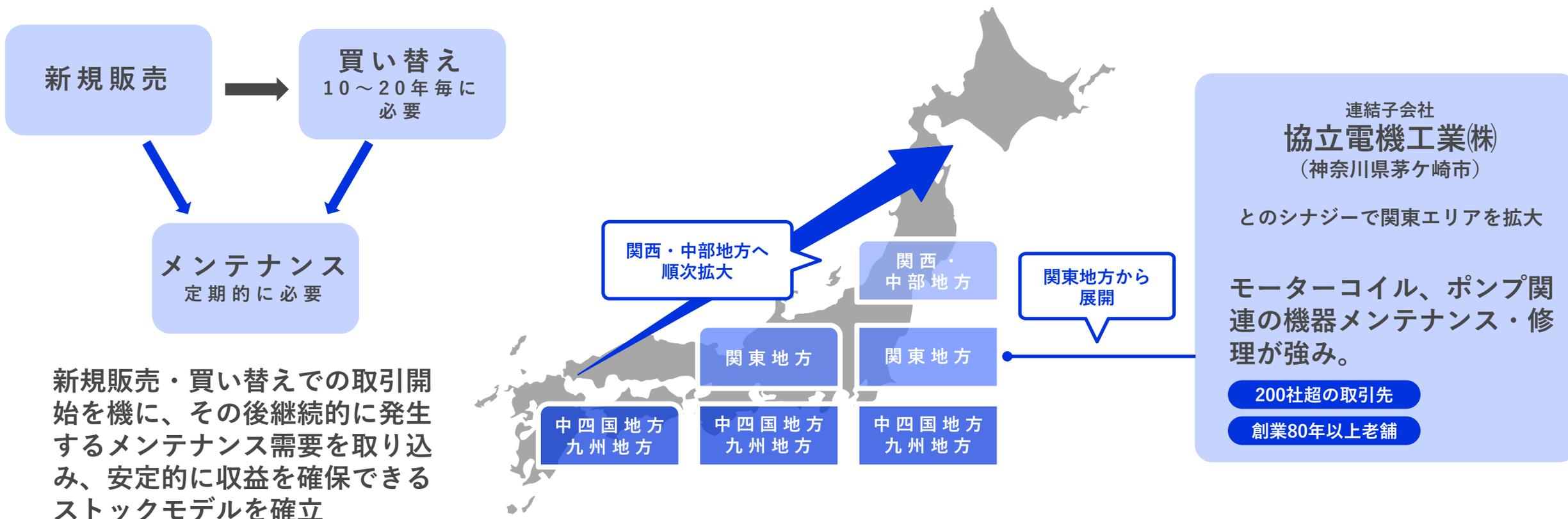
- 新分野の開拓と市場ニーズへの対応
-

3. 防災・安全事業

- 消火装置「ナイアス」の販売拡大
-

4. 成長加速に向けたM&A戦略

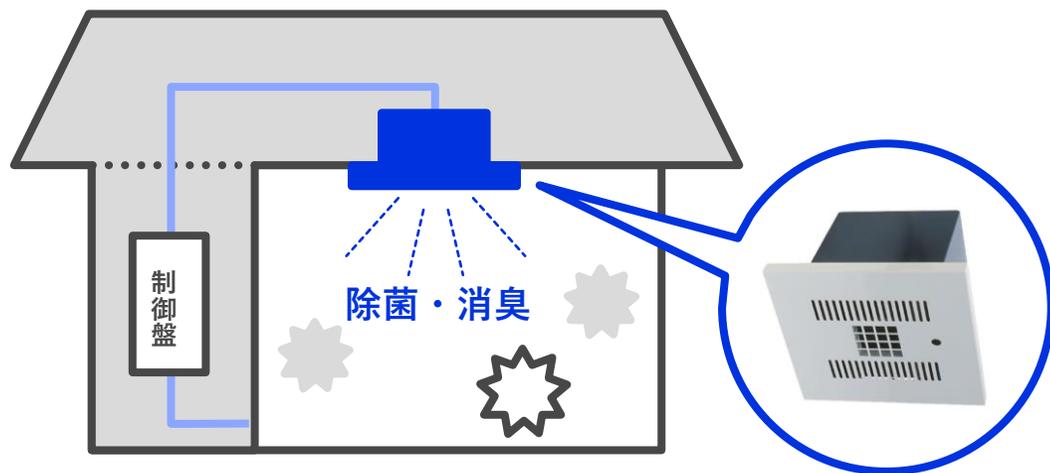
安定的な需要環境の下、ポンプ事業の強みであるメンテナンスサービスを活かし、 エリアを全国へ拡大しスケールメリットを最大化



社会課題解決型商品の販売を拡大 社会課題の解決への取り組みと環境改善機器事業の拡大を両立

オゾン装置

- 感染症対策を背景とした除菌設備への関心の高まりを受け、新設需要・更新需要を確実に取り込む
- 共同研究によるウイルス不活性化技術の開発、製品化、早期の市場投入を目指す



SEAWALL

- 災害対策への関心の高まりと継続的な営業活動により多数の引き合いあり、今後刈り取りフェーズへ移行
- 大型公共事業を中心に、引き続き受注獲得に注力



導入実績

2016年3月	釜石港（岩手県釜石市）	6.1m
2017年6月	福山港（広島県福山市）	1.45m
2018年6月	須本港（兵庫県洲本市）	1.2m
2020年3月	焼津漁港（静岡県焼津市）	1.2m
2020年12月	魚市場前（宮城県気仙沼市）	3.2m
2021年3月	南芦屋浜（兵庫県芦屋市）	1.8m

昨年9月に子会社化した株式会社マリンリバーと連携を深め、 大型水産設備市場におけるチラー・熱交換器及び水処理機器の販促強化

株式会社マリンリバー

水産試験場や活魚センターなどで使用される水産設備についての設計・製造・施工を行っているニッチトップ企業
マリンリバーの主要製品は、海水用ヒートポンプチラー、チタン熱交換器、シェル&コイル熱交換器、シェル&チューブ熱交換器

会社名	株式会社マリンリバー
所在地	福岡県糟屋郡篠栗町
代表者	代表取締役会長 村本 修 代表取締役社長 吉原 幸志
事業内容	魚介類水産物の養殖等に関する設備設計及び施工 冷却加温装置・熱交換器の設計製作
資本金	1,000万円
設立年月日	1987年10月1日

当社グループ企業としてのマリンリバーの 成長機会と相乗効果

① 農林水産省が2030年の養殖魚輸出額を2018年比で10倍増加まで目指しているという養殖漁業の環境もあり、将来性に期待できる業界であります。マリンリバーは専門性が高いニッチトップの企業であり、当社グループへ加入することによって、人員体制の拡大、技術力の向上、販路の拡大、財務基盤の安定などが見込まれ、同社の事業基盤の更なる成長が見込まれます。

② マリンリバーの主要製品については、当社の連結子会社での製造が一部可能な製品もあり、また、その製品納入先には当社の商品であるポンプやブロワなども付随して販売できる可能性があるため、製造面及び販売面での相乗効果が見込まれます。

継続的成長を見据え新たな分野へアプローチ

- 関連市況の変動リスクに備え、造船業界以外の分野へのアプローチを推進
- 船舶関連機器の製造受託においては、淘汰が進む中、市場のニーズに即応した製品の投入に注力
- 船舶からの排気ガス規制に対応した環境配慮型製品の製造



開発力を強みに、新たな市場の開拓により販売拡大を目指す

新たな市場の開拓

- 燃料電池自動車（FCV）の燃料となる水素を補給する水素ステーション向け冷却装置としての需要増加
- 商業施設等大型施設への導入に向け、設計事務所との連携強化
- 新たな市場の開拓、販路拡大による導入増加を目指す

病院・介護福祉施設向け導入拡大

- 消防法によりスプリンクラー設置義務のある病院、介護福祉施設などすでに導入実績のある市場を中心に引き続き拡販

導入事例

2007年5月～
福祉施設（広島県）



2011年3月～
南極昭和基地



創業以来、子会社化や営業権取得等を通して事業を拡大
引き続きM&Aを活用し、グループ間シナジーの発揮による成長加速を目指す

オーガニック成長

ポンプ事業の安定収益
エリア展開加速
成長事業の拡大

+

M&Aによる成長

既存事業の競争力強化に
つながる企業や事業

業務効率化の推進やウェブマーケティング手法の導入により、 各事業の強みを活かした成長を実現し、グループ全体の企業価値向上を目指す

ひと・みず・くうきにかかわる事業（ビジネス）に投資・育成し、
それぞれの企業価値とグループ価値を高める



電力を使用せず、窒素ガスで加圧することで安定した散水を可能にし、 災害時に水道や電気が停止しても作動

世界初の 圧力水槽方式（窒素加圧）

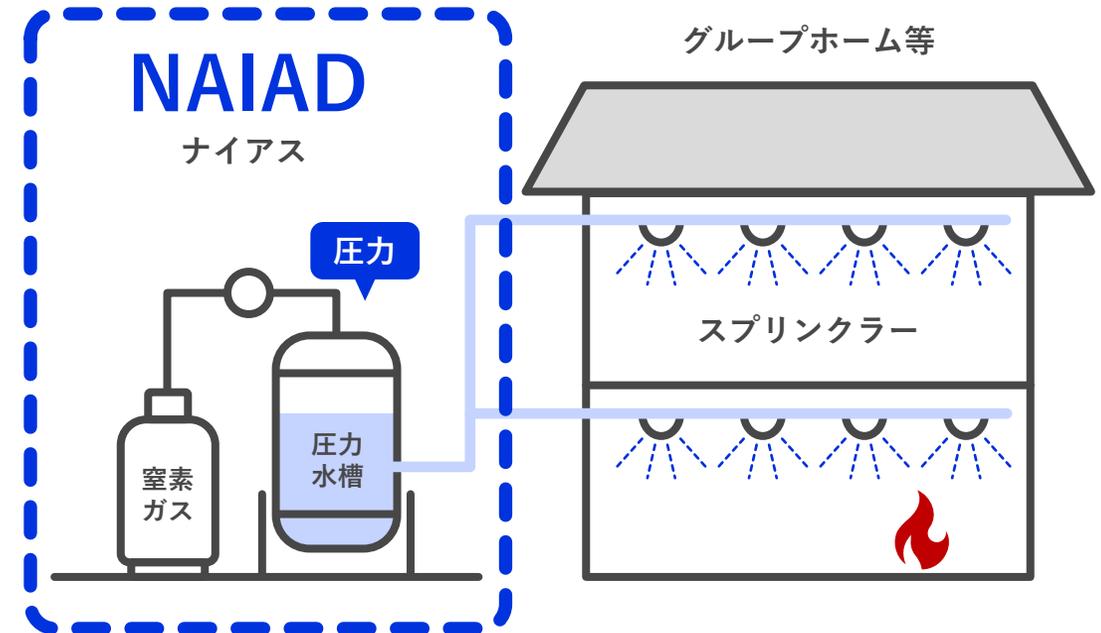
窒素ガスの圧力により、タンク内の水を安定供給する世界初の消火装置

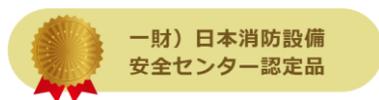
災害時に電気・水道がストップしてもOK

窒素ガスの圧力で送水するため、停電・断水時も確実にスプリンクラーを作動させることが可能

水槽内の水は非常用にも使用可能

水槽内の水は窒素ガスで封印されているため、水が腐敗せず、地震・災害時には、非常用として使用が可能（飲用は不可）





1998/1	当社製品「ナイアス」	一般財団法人日本消防設備安全センター評定品
2002/5	当社製品「ナイアス」	第10回中国地域ニュービジネス大賞を受賞
2003/1	当社製品「ナイアス」	第13回ニュービジネス大賞優秀賞を受賞
2006/7	当社製品「環銘」	経済産業省新連携事業認定
2009/9	当社製品「ナイアス」 NAP-M2400S	日本消防設備安全センター認定品※1
2012/2	当社製品「ナイアス」	第4回「ものづくり日本大賞」優秀賞受賞

※1 2009年9月以降、「ナイアス」NAP13N・NAP-M1200S・NAP6N・NAP-M2400・NAP16N・NAP20N・NAP-M3200が順次、財団法人日本消防設備安全センターの認定品となる

水辺の景観に配慮しながら、津波や高潮発生時に防潮壁の向こう側の様子を伝え、 地域住民の安全を守る

防潮壁設置数増加の背景

東日本大震災以降、水辺の安全確保に対する関心の高まりに伴い、想定水位が従来以上に高く設定され、防潮壁設置数が増加。

防潮壁設置による課題

- 圧迫感のある壁により景観を損なわれる
- 水辺情報の遮断が避難の遅れを引き起こす危険性

ポエックのソリューション

津波対策の問題と地域住民のニーズに応え、
景観と命を守る景観配慮型防潮壁「SEAWALL」

ハイパードライ(HD)技術を用いた羊膜の製造販売事業の拡大

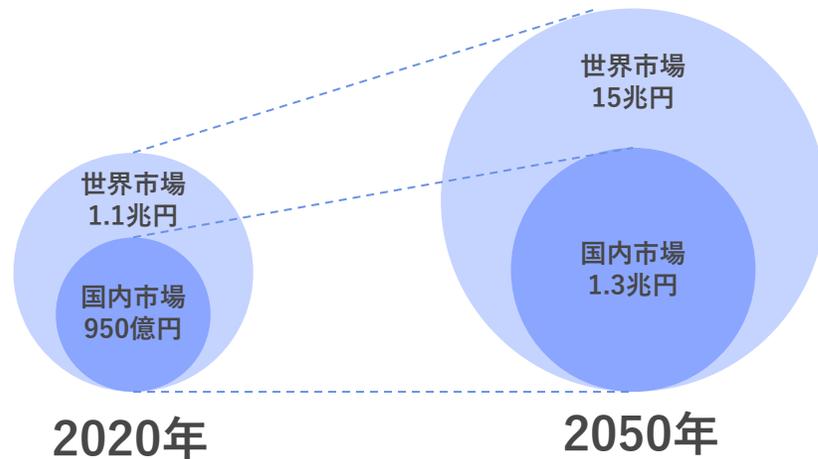


所在地	富山県下新川郡朝日町草野287-1
設立	2014年1月 医療機器製造の許可を保有する株式会社TSSと当社により共同設立
代表取締役	田中 淳
資本金	30百万円 当社出資比率13.2%

拡大が見込める再生医療分野において、
韓国市場での販売実績を足掛かりにグローバルな事業展開を推進

- 韓国の皮膚科及び眼科領域において販売開始
- 韓国での臨床実績を積み上げながら、日本国内での製造販売承認取得のため、「第一種医療機器製造販売業許可」「医療機器製造業」を既に取得し、準備を継続
- ヒト羊膜を使用した新たな製品開発も開始
- 当社経営陣が取締役に就任し、多様な資金調達手段の確保や内部管理体制の整備をサポート

再生医療周辺産業 市場規模※



進捗

2018年6月	米国FDA（食品医薬品局）登録
2020年9月	韓国現地法人Amnos Korea設立
2019年5月	韓国食薬処から人体組織を取り扱う「ティッシュバンク」としての許認可を取得
2020年12月	「人体組織製品」として、韓国内での輸入販売が承認
2021年7月	第1号となる受注を韓国の医療機関より獲得

※出所 2018年9月近畿経済産業局地域経済部バイオ・医療機器技術振興課「関西再生医療産業コンソーシアム（KRIC）の紹介」

IRメール配信サービスについて

ご登録いただくと、当社ウェブサイトに掲載される最新のIR情報を公表と同時にメール受信いただけます。



IRメール配信登録

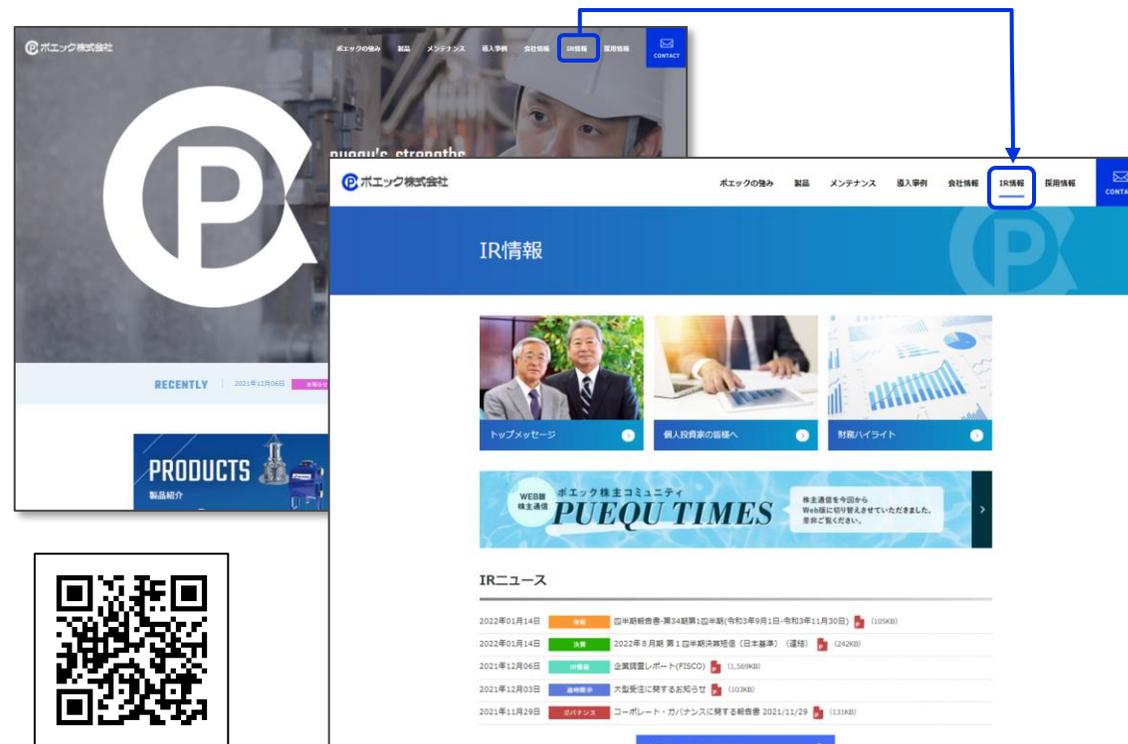
<https://www.magicalir.net/9264/mail/index.php>

Web版株主通信 PUEQU TIMESについて

環境負荷低減の観点より、2021年8月期期末より株主通信の紙面印刷・郵送を取り止め、当社ウェブサイトへの掲載に切り替えました。年2回（期末・中間）更新しておりますので、ぜひご覧下さい。

当社ウェブサイトIR情報ページについて

当社についてよりご理解を深めていただけるよう、IR情報ページにて積極的に情報開示を行っております。



IR情報トップページ

<https://www.puequ.co.jp/ja/ir.html>

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ環境や当社の関連する業界動向等により変動することがございます。従いまして、実際の業績等が、本資料に記載されている将来の見通しに関する記述と異なるリスクや不確実性がありますことをご了承ください。

なお、本資料の金額及び比率については、特に記載のない場合、以下のとおりです。

表示単位：百万円（単位未満切捨）

比率については円単位にて算出し、小数第一位未満を四捨五入

